

おトク!あんしん!楽ラク!
中古車の個人売買をサポート
カーコン・マーケット



『今日、僕は車を売ります』
走行距離5万5千200キロ
思い出がたくさん詰まった車
父に貰った車
助手席には彼女がいた
幸いに無事故
だから僕は、個人で車を売りに出かけます
カーコンビニ倶楽部は
車の個人売買をおすすめしています

カーコン・マーケットとは
カーコンビニ倶楽部と生活総合情報サイト「All About」による中古車販売を支援するインターネットサービスです

〒108-0075 東京都港区港南2-11-19 大滝ビル <http://carconmarket.jp>

『トランプ大統領の風(2)』

米国における自動車は「聖域」であり、政治とのつながりの中で、日米間が自動車摩擦を起こし、日本車の米国に対する輸出の自主規制が長きにわたって続いた。ここ数年で言えば、日本車のリコール騒動やエアバッグ裁判などが起こり、アメリカで市民権を得るまでには、厳しい道のりがある。トランプ大統領が今後どのような政策を論じるかは別にして、アメリカと日本の関係がより複雑になるのは間違いない。日米など12カ国で合意され、衆議院で可決されたTPPに関しても、ほとんど意味をなさないものになり、早くもアメリカファースト思想が現実的に日本の企業に大きな影響を与えている。

一方で、アメリカの自動車市場ではオイルショック以降、大型車から小型車へと人気が変化している。日本のメーカーが生産している小型車は品質が高く、低価格なため、輸出が急増している。これらの問題を整理すると、カーコンビニ倶楽部でも大なり小なりトランプの政策を的確に把握し、先取りをする必要がある。

例えば、トヨタとGM、クライスラーと三菱自動車などの日米での合弁生産などから考えると、米国の自動車産業が日本式の生産管理方式を吸収し、我が国を始め、東南アジアにも強い攻勢をかけてくることが考えられる。また、大型のSUV（スポーツ用多目的車）やテスラなどをはじめとした電気自動車の輸入車数も加速度的に増えるであろう。アメリカ車との競争力が向上することで、結果、各加盟店にも今まで以上にアメリカ車が持ち込まれることが多くなるのであろう。

こうして考えてみると、トランプ氏というよりは、本来の意味でのグローバル化の波が我がグループにも一気に襲ってくる予感がするのである。



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do フィナンシャルサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任